

5月市会本会議 補正予算賛成討論

討論に先立ち、新型コロナウイルスに感染されお亡くなりになった方々のご遺族に、謹んでお悔やみ申し上げますと共に、今なお治療中の方々にお見舞い申し上げます。また、医療や介護の最前線で奮闘される方々に感謝申し上げます。

公明党京都市議員団は、議第60号および議第67号京都市一般会計補正予算案に賛成いたしますので、その理由を述べ討論を行ないます。

世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルスの脅威によって市民の暮らしや事業者の経営が深刻な苦境に陥り、まちの活力が失われる危機に直面している中、市長が2度の補正予算を矢継ぎ早に提案されたことは大いに評価できると考えます。

特に、中小企業支援については、4月市会で成立した緊急支援補助金への申請が想定の倍を超えたことに迅速に対応し満額支給を実現されました。今回の補正予算は、観光・宿泊・飲食・伝統産業が壊滅的な打撃を受ける中で、未だ府県を越える移動が制限されている実情を直視して、ピンポイントで焦点を当てるものであり、経済再起動への第一歩として賛同いたします。

飲食店デリバリーサービスの利用促進については、これからの「新しい生活様式」に適應する飲食店の売り上げ拡大に資すると期待されます。だからこそ、地域に根付いた小規模飲食店が取り残されることが無いよう、意欲を喚起できるような丁寧な広報・周知をお願いいたします。

市民による京都の魅力再発見の事業は、飲食店や宿泊施設の需要を喚起するプランですが、市民が市内に宿泊するという企画に意味があるのかという批判があります。しかし、幕末明治の激動期に京都の危機を自分たちの知恵と勇気で乗り越えた町衆の心意気を発揮する 때가今であると思います。市民ぐるみの団結を結集する事業となるよう、市長が先頭に立って1人1人の琴線に触れる力強い呼びかけをお願いします。

さて、新型コロナウイルスは治療法が確立せず、第2波への懸念が払しょくされない現実から目を背けることはできません。感染拡大への不安が渦巻く中、市民の安心安全は喫緊の課題です。その意味で、補正予算に医療機関の支援や妊婦を含めたPCR検査の充実、障がい者への支援などを盛り込んだことは評価できます。一方で、介護施設や介護サービス事業所も疲弊しています。今後のさらなる充実を求めます。

また、長期にわたり休業していた学校の再開に向けた取組に関しては、今後のICTの活用や学校現場における感染症予防対策などの課題が残っています。経験したことの無い生活を強いられた児童・生徒へのキメ細やかなケアをお願いします。

文化芸術活動の緊急奨励金が拡充されました。京都らしい継続的な支援となるよう、国や府と連携して頂くことを求めます。

学生の学び環境創出事業は、我が会派が5月19日に提出した第2次緊急要望で求めた大学や学生への支援の一環であり評価します。オンライン授業など各大学の環境整備では、時代の激変に対応できるよう本市のリーダーシップが必要と指摘いたします。

緊急要望で求めた商店街支援も、補正予算に追加されました。地域特性を尊重し、消費者のニーズに合う振興策につながるようなバックアップを求めます。

避難所の感染拡大対策は、22日の本会議代表質問で我が会派の松田議員が求めたものであり、スピード感を持って予算化されたことを評価します。ここ数週間、地震が頻発しています。梅雨や台風の季節を控える今の段階で、強い問題意識に立ってキメ細かく執行して頂くようお願いします。

同じく代表質問で、大道議員が妊産婦支援として「仮称・みらい応援給付金」を提案しました。特別定額給付金の対象外である4月28日以降に生まれた赤ちゃんにも一定額を支給する独自制度です。ぜひ、前向きに検討して頂きたい。

以上、補正予算に賛成する理由を論ずるとともに、今後への指摘を申し述べました。私ども公明党議員団は、誰1人取り残さないというSDGsの理念のもと、市長とスクラムを組んで「ワンチーム」で、コロナとの戦いに勝利することをお誓いし討論とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。